

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	玉名市立玉名中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	6	8	1	22	42人
生徒数	253	239	294	2	788	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を育てる指導と評価の研究 ~基礎基本の定着を土台にした自ら学び考える力の育成~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全職員での研究実践を推進するため全学年・9教科での研究を進めている。	
教科	研究テーマ
国語	書く意欲を引き出すための指導と評価の工夫 - 相手や目的を意識して書く力を育成する授業づくり -
社会	確かな学力を育てる楽しい社会科学習の創造
数学	基礎基本の定着を図る指導と評価の工夫
理科	目的意識を持った観察・実験の指導と、評価の工夫
音楽	歌詞の内容や曲想を感じ取って、歌唱表現を工夫すること
美術	豊かな表現力を育てる、指導の工夫
保健体育	自ら学び、考える力を身につけ、生涯体育を志向する生徒の育成
技術家庭	指導と評価の一体化を図る授業の工夫
英語	基礎・基本の定着と実践的コミュニケーション能力の育成を図る 学習指導の工夫
少人数実施教科 T・T実施教科	第二学年 数学・英語 全学年 理科

(2) 年次ごとの計画

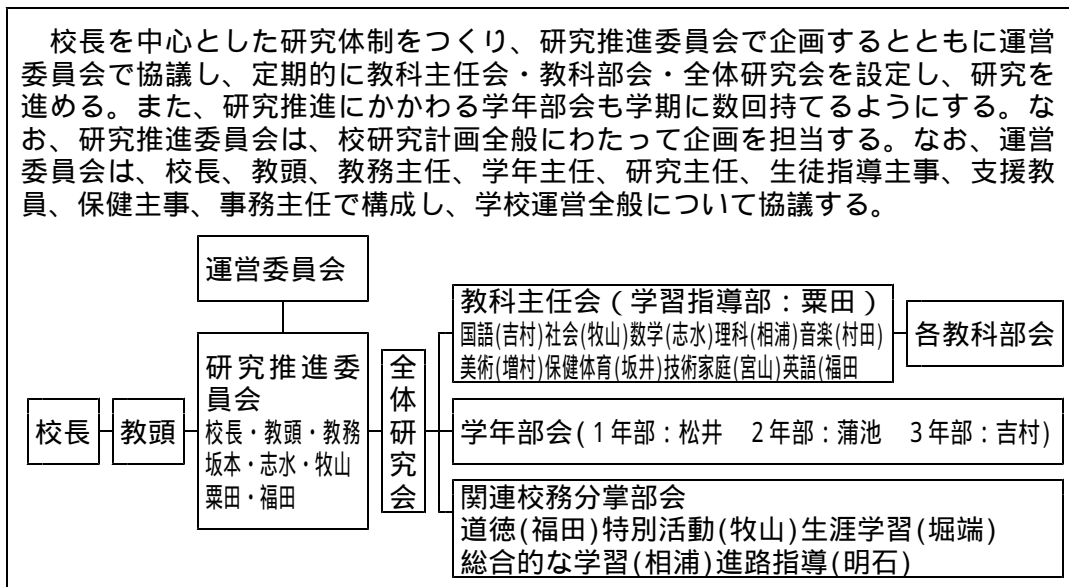
平成14年度	
--------	--

平成 15 年度	<p>確かな学力を育てる指導と評価の研究 ～基礎基本の定着を土台にした自ら学び考える力の育成～</p> <p>指導と評価の一体化を図りながら、基礎基本の定着を土台とした自ら学び考える力の育成を図れば確かな学力を身につけた生徒が育つであろう。</p> <p>研究は、次のような内容に重点をおいて実践してきた。</p> <p>(1) 各教科での取り組み</p> <p>ア 指導の工夫 (ア) 指導形態の工夫(少人数、ティ-ムティ-チングなど) (イ) 自ら学び考える場の設定(能動型学習) (ウ) 基礎基本の定着を図る手だての工夫(徹底指導)</p> <p>イ 評価の工夫 (ア) 生徒の学びに生かす評価活動の工夫 (イ) 観点別評価規準及び基準の活用と修正 (ウ) 自己評価及び相互評価の工夫</p> <p>(2) 各学年部会での取り組み</p> <p>ア 基本的な学習態度の育成(「学習の力をつけるために」の徹底など) イ 朝自習の充実(主体的な学習態度づくり、基礎基本の学習内容の定着など) ウ 豊かな心の育成(道徳の時間の充実)</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>平成15年度と同じ</p> <p>平成15年度の研究内容を基本として、研究実践が不十分だったところを重点的に取り組む。</p>
----------------	--

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 研究授業週間を各学期1回ずつ設定することにより、お互いの授業を公開し、授業技術を高めあうとともに、本校研究の重点事項である指導と評価の一体化を目指した授業のあり方を模索することができつつある。

1, 2月期の研究授業の取り組み 8教科・領域 延べ15回実施

- 生徒の「学習の力をつけるために」(授業での約束5項目)や教師の「活力ある授業を創造するための共通行動」(授業での約束5項目)が浸透しつつある。

<各教科の取り組みとして主な成果>一部抜粋

- 理科のチームティーチングの授業は、生徒アンケート(平成15年11月2, 3年生で実施)によると、チームティーチングの授業は先生一人の授業と比べて「とてもよい」「よい」と答えた生徒がそれぞれ、31%、34%いた。また「どちらかわからない」が35%、「一人の方がよい」と答えたの生徒が0%であった。「とてもよい」「よい」と答えた生徒のその理由(複数回答)については、「質問がしやすい」57%、「授業内容が理解しやすい」36%、「実験・観察がうまくいく」32%の割合であった。チームティーチングの授業に関しては、生徒の調査結果にもあるように観察・実験の授業で有効である。生徒への支援がきめ細かく行え、危険防止に関してもより徹底でき、それまで行いにくかった観察・実験を行うことも可能である。

- 数学科の授業での取り組みである、観点別評価規準および基準、それに伴う準拠問題の3つの作成資料の活用は、生徒に好評である。授業を「目標の設定」「確認テスト」の流れで行うことに対して、生徒アンケート(平成15年7月1年生で実施)によると、「よかった」と答えた生徒が88%、「かわらない」と答えた生徒が12%、「今までがよかった」と答えた生徒が0%であった。「よかった」と答えた生徒のその理由については、以下のような内容が挙げられた。

「授業の目標があるとわかりやすく、達成感があるから。」

「最後に復習ができるし、確認テストでB, Cの評価だったところをみてやりなおしがきくから」

「目標がはっきりしているのでそれに向かって頑張れる」

2. 今後の課題

- 各教科の仮説の検証がまだまだ教師の主観によるものが多く、やや客観性に乏しい。研究成果として客観的なデータの収集・分析が必要である。

- 作成済みの観点別評価基準の活用に教科間でばらつきが見られ、まだ十分な活用に至っていない教科がある。作成した観点別評価基準を活用しながら、修正を加え、生徒の学びに生かせるような評価の返し方が必要である。

学力把握のための学校としての取組

- 生徒の生活・学習に関するアンケート調査(5月実施)
目的: 生徒の生活の実態、学習の実態を明らかにし、職員が改善すべき点の共通理解を図り、共通行動をとるために実施する。
内容: 基本的な生活習慣、基本的学習態度等のアンケート調査

- 領域別標準学力テスト(4月実施)
目的: 生徒の学習の理解状況を把握し、授業改善に役立てるとともに、授業の基礎資料として個に応じた指導に活用する。

内容: 国、社、数、理、英の学力調査

- ゆうチャレンジ(12月実施)
目的: 子どもたちが、学習指導要領に示す目標・内容(基礎的・基本的事項)をどの程度実現しているかを把握するため、評価問題により子どもたちの学習到達度を明らかにし、個に応じた指導を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図る。

内容: 国、社、数、理、英の学力調査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 研究発表会について
日時 平成16年度10月～11月の1日を予定 詳細は現在調整中
場所 玉名市立玉名中学校 予定
対象 県内中学校に案内状を配布予定
その他
本校の研究に関する作成資料(教材等)等を公開し、玉名管内を中心にその普及に寄与する。
- ・ 玉名管内学力向上推進協議会(H6, 2, 3)での本校研究内容の説明

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無